



嬉野文化再生プラン（仮題）

第2段階：地域別・項目別構想

— 地域の個性を生かし、未来をつくる —

1. 塩田津地区：記憶と創造のまち

— 白壁の通りに、もう一度灯をともし —

【現状と課題】

- ・江戸時代の面影を残す塩田津は、世界にも誇れる歴史的景観をもつ一方で、高齢化と空き家の増加、昼間人口の減少が進んでいます。
- ・その結果、地域に「日常のにぎわい」が失われつつあります。

【再生の方向】

1. 「動く町並み」プロジェクト

- ・オートマタ（自動人形）や影絵、光と音を融合させた「歩くアート展」
- ・古い家屋の壁や窓を利用した夜間ライトアップ
- ・若手アーティスト・技術者・地元職人との協働制作

2. 「暮らしの博物館」構想

- ・町並み全体を展示空間として再構成
- ・古民家をテーマごとに活用（例：染め、木工、器、物語）
- ・訪れる人が滞在しながら体験できる「文化宿泊体験」

3. 「住む町・働く町」への転換

- ・週末出店型カフェ、古着屋、アートショップの空き家再利用
- ・SNS発信担当やイベント広報チームを地域で育成

2. 吉田地区：創る力のまち

— 吉田焼から世界へ、語る陶器の物語 —

【現状と課題】

吉田焼は伝統を守りながらも、デザインや流通面で課題を抱えています。若手の参入も少なく、地域ブランドとしての再構築が求められています。

【再生の方向】

1. 「吉田焼アート・レジデンス」構想

- ・若手陶芸家・デザイナーを国内外から招き、滞在制作
- ・子どもや移住者との共同ワークショップ開催
- ・地域住民と作品を「共に作る」文化体験の創出

(★注ーこれは特にイタリアからアーティストを招聘し、1ヶ月ほど滞在していただき、吉田焼きとのコラボです。別紙にて、吉田焼きだけの構想PDFをアップします。)

2. 「物語のうつわ」プロジェクト

- ・陶器に地域の物語や自然を描く
- ・映像・絵本・音楽と連携して作品世界を発信
- ・「吉田焼×イタリア」「吉田焼×北欧」など国際交流展示

3. 「産業+アート+教育」連携

- ・小中学校との陶芸授業連携
- ・福祉施設との協働（リハビリ陶芸・アートセラピー）
- ・高齢職人による技術伝承と後継者育成

3. 嬉野温泉地区：人と健康のまち

ー 温泉の癒しを、生活文化へ ー

【現状と課題】

温泉地として全国的に知られる嬉野だが、観光偏重により、市民の日常と温泉文化が乖離している。
また、若者や退職者が地域活動に関われる場が限られている。

【再生の方向】

1. 「文化サロン・カフェ」構想
 - ・空き店舗や旧旅館の一角を、市民交流と学びの場に
 - ・退職者による講座、英会話・絵画・健康講話など多世代型サロン
 - ・観光客も立ち寄れる「地域の応接間」として開放
2. 「湯と食の学校」プロジェクト
 - ・地元野菜・発酵食・菜食文化を生かした料理教室
 - ・ヴィーガン・グルテンフリーなど世界基準の健康食文化発信
 - ・市内飲食店と連携した「ウェルネス・ツーリズム」推進
3. 「温泉×芸術」コラボイベント
 - ・音楽・朗読・映像を組み合わせた湯のまち文化祭
 - ・夜の温泉街を舞台にした「灯りと音の祝祭」
 - ・芸術を通じた地域連帯と観光再生の両立

4. 共通基盤の仕組みづくり

(1) 市民文化基金（Community Fund）

- ・ 市民フリーマーケットやチャリティイベントの収益を地域資金化
- ・ 小さな文化活動や修繕費を市民が自ら支える仕組み

(2) 広報・デザイン戦略


- ・ 若手移住者・高校生・主婦層などからなる「広報部」設立
- ・ SNS・動画・紙媒体を組み合わせた多層的発信
- ・ ロゴ・映像・ストーリーデザインによるブランド化

(3) 連携と育成

- ・ 行政・市民・事業者の三者協働による推進会議
- ・ 文化コーディネーターや地域リーダーの育成
- ・ 学校教育と社会教育の橋渡し役の確立

まとめ

この第2段階では、地域ごとの強みを生かしながら、
「文化を仕事に」「文化を日常に」していくための土台を描きました。
次は、

 第3段階：具体的実践案・プロジェクト集（市民を魅惑して離さない部分）

— 巨大フリーマーケット、塩田津オートマタ、吉田焼国際展、など —
を物語的・行動計画的にまとめます。